



色彩館に咲く

アルブツス ウネド

Arbutus unedo

ツツジ科アルブツス属

原産地：南ヨーロッパ、アイルランド

真っ赤な果実が目を引く

一般的にイチゴノキの名でも流通する常緑高木で、高さ5~10mの高さになります。葉は革のような質感の分厚く濃い暗めの緑色で、長さは6cm~10cmほどの細めの楕円形をしており、緑の部分が細かいギザギザになっています。花はクリーム色のドウダンツツジに似た形で、通常秋から冬にかけて咲かせますが、不定期に咲くこともあります。両性花なので、一株で結実することができます。果実は直径1.5cmくらいの球形で、表面はイボイボしており、熟すにつれ、緑色から黄色、オレンジ、赤と徐々に色が変わっていきます、大変美しいグラデーションを楽しめます。また、果実は1年かけて大きくなり、翌年の開花時期頃に熟すので、花の開花と果実を同時に楽しむことができます。また、園芸品種には、矮性の`コンパクト`や小葉性の`マイクロフィラ`、紅花の`ルブラ`などがあります。イチゴノキという名前の由来は、果実のイボイボした様子がイチゴを思わせるからとされてい



ますが、どちらかというともヤマモモの果実に似ています。属名の`Arbutus`は`イチゴ`を指し、種小名の`unedo`は`一回食べる`を意味する`unum edo`からきているという説があり、これは果実は生で食べてもあまり美味しいものではないことから、`一回食べればもう食べたいとは思わない`という意味のようです。そのため、果実は主にジャムや果実酒にして利用されます。また、革はタンニンの原料になります。性質は大変強健で、半日陰にも耐え、栽培にあまり土質は選びませんが、石灰質を含むカルシウム豊富な土壌の方が成長が良いようです。耐寒性は-10℃くらいまでは耐えますが、北海道の屋外での栽培は難しいので、鉢植えで管理することになります。

色彩館の大温室にあるイチゴノキもちょうど可愛らしい花を咲かせています。植えてから3年ほど経ち貫禄も出てきました。今年は昨年よりもたくさん結実できるでしょうか。楽しみです。



雪虫が飛び、もういつ初雪が降ってもおかしくない季節になりました。バラ園のハマナシもこのところの朝晩の寒さですっかり紅葉しています。今年はなんだか冬が早いような予感がして焦ります。そろそろ冬囲いの季節ですね。バラの冬囲い（雪囲い）は基本的には他の樹木と同様に積雪や寒さ、風からの保護を行います。しっかり寒さに当ててバラに休眠を自覚させてから囲っていきますが、品種によってはハマナシのように自ら寒さを感じ紅葉して休眠の準備に入らない品種もあります。このような品種は強制的に休眠を促してやらなくてはなりません。枝から葉を全部取り除いて枝だけにする「葉むしり」を行って、冬がくることを教えてやりましょう。寒さに弱い品種は特にこの作業が有効になりますので是非行ってください。



色彩館

温室ではパッションフルーツの花が咲きました。刷毛で受粉させて結実を待ちます。うまく実がなりますように。大温室ではヒメイチゴの木の花が咲いています。



バラ園

バラ園では冬支度が進んでいます。去年よりも大株に育ったので葉むしり作業も時間がかかります。葉むしりが終わったら結束して支柱をしていきます。これからは雪との競争です。

花と緑の供給センター

雪に備えてハウス周りの整理をしながらバラ班のお手伝いをしています。来年の装飾の花は何ししようかなど計画も進んでいます。

ユキムシの話



文：MIZ

ふわふわふわ。

山に冠雪が確認され、いよいよ冬が迫っています。平地にもいつ雪が降るかとソワソワしだすこの季節、ユキムシが飛び始めます。ユキムシという名は愛称で、学名をトドノネオオワタムシといいます。実はアブラムシの仲間です。1年の内に2世代に渡り繁殖し、私たちがよく目にしているのは2回目の産卵時期の晩秋に一斉移動する姿です。近年では呼吸するのが戸惑われるほどの飛来がしばしばニュースで流れているのを目にします。知れば知るほど愛らしさや幻想的な雰囲気がぼろぼろとこぼれてゆく気がします。口を閉じて、静かに、ユキムシを眺めているのがいいですね。

よし
なし
ごと

ひとつき ひとバラ



文：新堂大樹
(いわみざわ公園バラ園)

イラスト：藤川志朗
(イラストレーター)

第二十回

ハイブリッドムスクローズ

フランシス E. レスター

Francis E. Lester

作出国：アメリカ

作出者：Lester Rose Gardens

作出年：1946年

ハーディネスゾーン：Z6

返り咲き性

交配：Kathleen × Seedling



花は、白色で端の方がピンクがかっており、花芯は黄色で、枝に可愛らしい小さい一重の花をたくさん咲かせます。性質はトゲが少し多めで、枝は太く大変伸長力が旺盛で、まるでランブラーローズのように、大壁面を覆う植栽に向いています。また、半日陰でも育てることができる優秀な品種です。香りが強いので、花が一気に咲きそろうと周辺を香りで包み込むようなムスク香がします。耐寒性はそこそこでも、病気には大変強く、秋にはオレンジ色の小さいヒップをたくさんつけます。フランシス・E・レスターの名前の由来は、アメリカのバラ園兼ナーセリーであるレスターローズガーデンを開設した、フランシス・E・レスター氏(1864ー1945年)にちなみます。フランシス・E・レスターはイングランド生まれで、1900年頃アメリカに移住し、石工(石を細工する職人)のマスターになりましたが、バラ好きでオールドローズのコレクターでもありました。そして1938年70歳になる年にカリフォルニアに移

り、バラ園をつくったのです。70歳になっても住む場所をかえ、ガーデンまでつくってしまうなんて、バラに対する並々ならぬ情熱を感じてしまいます。このバラはフランシス・E・レスターの死去の翌年に夫人によって彼が育種したものの中から発表されました。晩年になってもバラに熱い情熱を燃やし続けたフランシス・E・レスターの勇ましい人生を表したかのような強健で旺盛なこのバラは、愛らしく優しい花の雰囲気とその強健な性質から世界中のロザリアンに愛されています。当園では、色彩館大温室とバラ園の整形式花壇で栽培しています。整形式花壇内のフランシス・E・レスターはようやくポールの上まで伸び、夏には盛大に咲いてくれました。シュートもたくさん出ているので、来年の一番花はもっと魅力的になっているのではないのでしょうか。色彩館大温室内のフランシス・E・レスターは10年を超えた貫禄がある株です。こちらは4月下旬から5月下旬にかけて見頃なので、盛大な咲きっぷりを見にいらしてください。



熊出没 注意

9/16 大正池散策路にて

熊の目撃情報がありました。

キャンプ場及びトリムコース、ふれあい広場、見晴台を全面封鎖しています。

バラ園、色彩館、パークゴルフ場は通常通り営業していますが、

安全のため山には決して立ち入らぬようお願い致します。

11月の市民園芸講座のご案内

これは面白い!



- 11月1日(日) 13:00~15:00 観葉植物を楽しもう
無料 定員:40名 講師:椿豊さん Green Art 百々屋
- 11月8日(日) 13:00~15:00 紅葉を楽しむミニ盆栽を作ろう
有料 2000円 定員:20名 講師:君島信博さん 草つ月主宰 盆栽作家
- 11月15日(日) 13:00~15:00 折りバラを楽しもう 中級
無料 定員:15名 講師:バラ園スタッフ
- 11月22日(日) 13:00~15:00 ローズヒップでクリスマスリースをつくろう
有料 1000円 定員:5名 講師:バラ園スタッフ
- 12月6日(日) 13:00~15:00 お正月のアレンジメント
有料 2000円 定員:40名 講師:伊藤とみ子さん 中央フラワー協会
- 12月19日(日) 13:00~15:00 体験してみよう! 樹木の香り
無料 定員:40名 講師:脇田陽一さん 道総研 林業試験場 研究主幹